



新春恒例、干支作品

さる
申の春展（1月4～7日）



▲会場には、工夫を凝らしたさまざまな作品が展示されました。

ハイトピア伊賀で申の春展を開きました。これは毎年恒例の干支の春展で、今年の干支の「申」にちなんだ多くの作品が並びました。今年の商品のほかにも、過去の申年である昭和31年や平成16年の絵馬、上野公民館サークルによる干支にちなんだ作品などを展示しました。

また、今回から小学生以下の子どもの作品を対象とした「子ども干支展」を開催し、切り絵や色鉛筆できれいにぬられた絵などかわいらしい作品がそろいました。



▲「子ども干支展」

読んで歌って遊んだよ

絵本の時間（1月6日）



▲歌に合わせてタンバリンや鈴を鳴らす子ども

いがまち図書室で、お話ボランティアグループ「お話の国アリス」による絵本の時間を開きました。

この日は、ギターの演奏で手遊びをしながら童謡を歌ったり、大型紙芝居や絵本の読み聞かせなどを行いました。参加した子どもたちはお話に聞き入ったり、一緒に声を出して楽しんでいる様子でした。



▲手を叩くと紙芝居が1枚めくられ、大きな絵が登場しました。

防火意識を高めよう

消防出初式（1月9日）



▲消防本部から80人、消防団から770人が一同に集まりました。式典に先駆け、駐車場では、消防職員・消防団員の行進に続き、消防本部の車両4台と消防団の車両21台が列を作り、行進しました。福山消防長の開式のことで式典が始まり、通常点検では岡本市長と辻上副市長らが消防職員や消防団員の姿勢や服装を点検しました。また、退団した団員への感謝状の贈呈や、優良消防団員の表彰などを行いました。

最後に、幼年消防クラブ員たちが、忍ジャーズダンス・チャイルドバージョンを披露し、声をそろえて防火の誓いをしました。

ゆめドームうえので、消防出初式を行いました。

式典に先駆け、駐車場では、消防職員・消防団員の行進に続き、消防本部の車両4台と消防団の車両21台が列を作り、行進しました。

福山消防長の開式のこ

ばで式典が始まり、通常点

検では岡本市長と辻上副市



▲通常点検の様子



▲優良消防団員の表彰の様子



▲忍ジャーズダンスを踊る幼年消防クラブ員の子もたち



お知らせ拡大版



芽生え始める大人の自覚

平成 28 年成人式 (1月 10 日)

新成人の門出を祝い、今年も中学校区ごとに市内9カ所の会場を設け、成人式を行いました。

▲今年 は 892 人が成人し、682 人が成人式に参加しました。
会場のひとつとなった市内のホテルでは、岡本市長の挨拶などのあと、成人式実行委員の司会進行により、新成人の中学校時代の様子を映し出すスライドショーや抽選会などを行いました。

また、小学校や中学校時代の恩師からメッセージが送られ、新成人から感謝の気持ちを込めて花束を贈呈しました。



▲成人式実行委員が、抽選の当選者にインタビューをしました。

お知らせ

催し

募集

まちかど通信

「ラム

図書・救急など



本紙 13 ページの「初瀬街道の宿に残る講看板展示」について、わかりやすく解説します。



こども広場

「講看板ってなあに？」

初瀬街道に残る講看板

青山の阿保地区に、「初瀬街道交流の館たわらや」があります。この辺りは阿保宿と呼ばれていて、かつて、旅籠(宿泊所)であったたわらやには、たくさん「講看板」が残され、現在それを保存・展示しています。

江戸時代、伊勢神宮へ行くことは大変な旅でした

観光地の旅館やホテルに行くと、入口に「〇〇ご一行様」と案内板が掲げられていることがあります。講看板はこれに似た役割を果たしていました。江戸時代の中頃、初瀬街道を通じて伊勢神宮へお参りする人たちが増えました。しかし、京都や大阪など、西からお参りへ行くには、難所であった青山峠を越えなければなりません。このため、峠の麓である阿保宿などの宿場町はとても賑わっていたそうです。今のようには鉄道はなく、道も整っていないため、何日もかかる大変な旅で、一生に一度で

きるかどうかの大旅行でした。

そこで、「〇〇講」や「〇〇組」と名前を付けたグループを作り、お金を貯めて安全な宿を決めお参りをしていました。グループはそれぞれの講名を長さ60cmほどのケヤキの板に彫って看板を作り、宿との契約のしるしにこの看板を渡しました。これが「講看板」と呼ばれるもので、宿泊する日には目にこの看板が宿に掲げられました。

講看板を大切に引き継ぐ

現在、保存・展示している講看板は、すべてたわらやに残



さされていたもので、昔を語る重要な資料として、講看板など78枚が三重県有形民俗文化財に指定されています。このように一カ所に多く残っていることは珍しいようです。新しいことを知るためには、古くから伝わる物はとても重要な資料です。みなさんもぜひ、実際に講看板を見て、昔の人たちの思いを感じてくださいね。

【問い合わせ】 青山公民館

TEL 52・1110 FAX 52・1211